

平成27年第2回

仙南地域広域行政事務組合  
教育委員会定例会会議録

平成27年5月29日開議

平成27年第2回仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議録

1. 召集日時 平成27年5月29日（金） 午前10時
2. 召集場所 仙南地域広域行政事務組合3階研修室
3. 出席委員 教育長 佐藤隆夫, 委員 川島陽子, 委員 菊地俊彦, 委員 佐藤芙貴子,  
委員 佐藤茂廣

4. 説明のため出席した者

教育次長兼仙南芸術文化センター所長 水戸雅彦  
主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤良

5. 開 会 午後10時

6. 平成27年第1回教育委員会定例会会議録の承認について

佐藤教育長	会議録について承認を求めます。
( 質 疑 )	<異議なし>との声
佐藤教育長	異議なしということですので、会議録は承認されました。

7. 会議録署名委員の指名

佐藤教育長	私のほか、菊地委員を指名します。
菊地委員	はい。

8. 諸報告

報告第1号 仙南地域広域行政事務組合教育長の就任について

平成27年2月23日当組合第225回議会定例会において、佐藤隆夫丸森町教育委員会教育長を任命することに同意を得たので報告する。また、辞令交付式は平成27年5月25日に丸森町教育委員会で行われた。任期は平成27年5月27日から平成30年5月26日までである。

佐藤教育長	今まで同様、皆様のご支援とご協力をお願いしまして、就任の挨拶と致します。よろしく申し上げます。
-------	---

報告第2号 平成26年度仙南地域広域行政事務組合教育費決算について

水戸教育次長より別紙資料1にてご説明申し上げます。

歳出の決算については、教育委員会費並びに事務局費は職員手当で不用額が出たものの、ほぼ予算どおりの執行である。視聴覚教材センター費については、需用費と役務費で不用額が出た。主な理由としては、公用車が軽自動車に変更したことでの燃料費の軽減、視聴覚機材等の修繕や視聴覚教材の宅配の件数が見込みよりも少なかったことが挙げられる。圏域活性化事業費については、AZ9パスポートの印刷製本費が例年より大幅に支出を抑えたため、不用額が発生した。

歳入の決算については、記載事項のとおりである。

( 質 疑 )	
菊地委員	収入の部のところで、圏域文化振興費を負担しているのが3町とありますけれども、この3町というのはどういう関係で3町となったんですか。そこを教えてください。そこ1つとそれから、あのAZ9のパスポートが今回少なかったんですね。
教育次長	歳出がそうですね。印刷費が下がったということですね。

菊地委員	印刷費が下がったということで。そこ2つをお願いします。
教育次長	はい。まず圏域文化振興費についてご説明します。これは仙南芸術文化センター建設まで遡りますが、あの当時まず宮城県が支援する事業として、地域活性化プロジェクトというものがございました。県内の7つの圏域にそれぞれ文化施設を県が建てましょう。広域で運用してくださいという事業でございました。各広域圏ごとに色々議論をしまして、県に要望を出して、施設を作りました。仙南圏域でも色々議論があったんですけども、その中で、当初はほとんどの市町が手を挙げていたんですが、様々な経緯の中で残ったのが、角田と白石と大河原。この3市町に建てたいというのが残りました。この最後の3つを、3箇所をですね、検討するにあたって色々な議論があったんですが、白石であれば100%出資が出しますというお話もありました。そうした色々な経過の中で、大河原に持って行くのであれば、地元の3町で負担すべきだという議論に、最後に収斂していったということがあります。と言いつつも、最初の整備のときにつきましては財団を作ったんですが、2億円の寄付金と一番最初の外構費と備品購入の一部については2市7町が負担しております。ですから、当初の段階では一部は負担したんですが、それ以降の毎年度の運営費の負担金は3町でという、そのときの議論の中で決まったということでございます。負担割合については、大河原町が67%、残りの33%については、柴田、村田の人口割という負担割になっております。これは組合の規約にて決まっておりますので、その枠ですと踏襲してこのような負担金で運営をしてきているという状況です。
菊地委員	ありがとうございました。
佐藤教育長	他に質疑ございませんか。私の方から確認の意味でね。今おっしゃったAZ9のジュニア・アクターズの件ですけども、歳出の3頁のところにジュニア・アクターズ養成委託料530万何某というのがあります。これに合わせまして、ジュニア・アクターズ公演分と2,336,000円とありますね。これをプラスして、その他の経費も足して1,000万近くになっていると思うんですが、もう1つは人件費として入っているんですか。というのは、費用として今後繋いでいかないといけない、総経費として教えていただきたい。確認しておきたいと思うんですが。
教育次長	今年度につきましては、この支出済額を見ていただきますと、7,435,996円で前年度の事業をすべて展開したことになっております。ただ前年度は地域公演がございましたので、少し大型の予算になっております。地域公演分を除くとですね。
佐藤教育長	その700万というのはどこの。
教育次長	すみません。3頁のですね、圏域文化振興費の右に目をずらしていただきまして、支出済額というのがございます。これがAZ9事業の決算額でございます。昨年度はこの金額だったわけですね。ただこれは、あの地域公演分も含んでおりますので、もし地域公演をしないですと、ここから一回り小さな事業費で。
佐藤教育長	150万と240万が抜けるということで。
教育次長	さらに印刷製本費のところ70万があるんですが、これはAZ9のパスポート関係になるんですね。所謂ジュニア・アクターズとは違う経費になりますので、ここも引いていただくと、500万強が所謂そのジュニア・アクターズ分の経費と考えていただいているのではないかと考えております。
佐藤教育長	それはほとんど委託料って言っているんですか。

教育次長	そうですね。
佐藤教育長	これが基本的な経費ということです。
教育次長	はい。これが、5,034,960円がほぼ基本のジュニア・アクターズの事業費になりまして、一部ここから抜けているのは、公演費が140万別途ございます。
佐藤教育長	プラスするわけですか。
教育次長	はい。640万程が所謂AZ9ジュニア・アクターズの養成費と公演経費ということになります。ここは少し絞っていけば、500万程度の予算があれば、例年どおりの事業は展開していけるとは思われます。
佐藤教育長	ありがとうございます。その他、質疑はございませんか。
	<質疑なし>

### 報告第3号 平成26年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計決算について

水戸教育次長より別紙資料2にてご説明申し上げます。

歳出については、需用費並びに工事請負費、負担金・補助及び交付金で不用額が出た。需用費は燃料費で冷暖房費の減によるもの、工事請負費は当初予算よりも低い金額で契約できたことによるもの、負担金・補助及び交付金は実行委員会負担金において事業に対する収入の補助金や助成金の増によるものである。

歳入については、記載事項のとおりである。

( 質 疑 )	<質疑なし>
---------	--------

### 報告第4号 平成26年度視聴覚教育事業の実施状況について

### 報告第5号 平成26年度視聴覚教材等の利用状況について

黒澤主幹より別冊教育委員会要覧にてご説明申し上げます。

12頁の視聴覚教材利用状況については、全体で前年度より利用回数201回の減、視聴者数3,971人の減、13頁で教材別に見ると、DVD教材では利用回数、視聴者数が共に微増しているものの、録画教材及び16ミリフィルム教材は共に減少している。16頁の視聴覚施設・機器の利用状況については、利用の最も多い液晶プロジェクターが前年度比で減少している。17～22頁までは、昨年度に新規に購入した視聴覚教材である。24～26頁の各種講座等については、記載のとおり開催した。27頁の第37回仙南地区自作視聴覚教材発表会については、6作品の出品があり、すべて全国自作視聴覚教材コンクールに推薦された。28～29頁の各種関係団体との連携事業及び情報提供事業については、記載のとおりである。

( 質 疑 )	
---------	--

佐藤(笑)委員	単純な質問をしていいかしら。
---------	----------------

佐藤教育長	どうぞ。
-------	------

佐藤(笑)委員	これって各学校に行っているんですよね。何か現場に居た時に見たことあると思って。所謂利用状況ね、減少したところもあれば、利用があったものもあったということで、新しく購入したのも見ながら、授業の中でと思いながら、昔を思いながら単純な質問をさせていただきました。校長会の際に話したいと思いました。
---------	---

佐藤教育長	これは配ったんですか。
-------	-------------

黒澤主幹	もちろん、配っております。
------	---------------

佐藤教育長	25 頁の一番上のところに森智弘教諭いるんですけど、26 年度ね、児相に出たんですよね。まあ、これは見なかったことに。
黒澤主幹	見なかったことにしますか。
佐藤教育長	まあ、止むを得ないな。
黒澤主幹	すみません。
佐藤教育長	たぶん本人に直接電話して来てもらってやったんだろうけども、そのときこっちの想いとしては館矢間小と思って連絡して、向こうはここに変わったよと言わないでいたと思うんですけど。そういうのはこっちで掴んで、何か指摘があれば、そういうことでございます、失礼しましたということで、応対してもらえればいいと思います。よろしくお願ひします。その他に質疑はありますか。
佐藤(茂)委員	単純な質問で。
佐藤教育長	どうぞ。お願ひします。
佐藤(茂)委員	関連になりますけども、視聴覚教材、非常にありがとうございます。あの学校現場は取りに来るといふか、または配達してもらうか、どちらが多いかと。
黒澤主幹	学校の先生は圧倒的に宅配が多いです。というのも、らいむ・ネットというインターネットで検索して、利用を予約していただいて、こちらからお送りしまして、また返却していただくという形が取れるので、こちらに取りに来なくても、教材が届くので、便利だということで使っていただいております。逆に社会教育の方は、直接私たちが、金曜日を中心になるんですけども、各公民館を中心に回っているので、そちらを使う方が多い。学校の先生はそちらの宅配を利用しています。
佐藤(茂)委員	返却のときも。
黒澤主幹	返却の着払いの伝票も一緒に入れるので、それを使って期限内に送っていただく形です。
佐藤(茂)委員	あともう一つ、学校関係で、見てて二極化とかよく言われますけども、よく借りる学校と、また先生に因るんですか。言いにくいかもしれませんが。
黒澤主幹	良いご指摘を頂いたんですけども、昔からなんですけども、いっぱい借りる先生がその町に居ると、その町の回数が上がります。その先生が別な町に行くと、また別の町がっていう。学校じゃなくてその市町という大きな捉え方をすると、その先生が異動することによって、その町の利用がグラフを見ると明らかなんですね。うちの市町別に出しているものですから。そういう先生が多いと逆に多くなるし、異動されると少なくなっちゃう。そういうのも、極端な話なんですけども、うちの方ではいっぱい、その先生に限らず他の先生にもご利用していただきたいということで、以前ですと、校長会、教頭会等でお邪魔して、利用についてお願ひしてきた経緯はございますが、今のところ資料関係で、一応配りながら、何か機会がある度にはお願ひしてきたんですけど。そんな状況です。
佐藤教育長	はい、どうぞ。
川島委員	えーと、研修会の件なんですけど、研修内容を見たときに、タブレット。学校で今、タブレット入ってますよね。そういったことの研修ということで、総合教育センター、あそこのところで研修した先生とか居るわけですよね、管内の先生の中でね。そうした講師の先生を誰にするかとか、そういったことがあるでしょうけども、タブレットなんかも入れてもらってもどうなのかな。

黒澤主幹	今後の検討課題ではあります。うちの方でも、学校現場の方に段々入ってきておりまして、それを使って授業をされているということが多くなってきたものですから、そのタブレットに使える、色んなその教材とかが、そのあるようなんですね。それを使えるような形で、できないのかなということ、今現在DVDだったりとか物でお貸しはしているんですけども、今度インターネットから物を引っ張ってきて使うみたいな、そんな感じで利用できるものの中にはあるみたいなので、そういうのも含めてですね、ちょっと検討したいと思います。
佐藤教育長	タブレットにつきましては、文部科学省がすべての学校に、それを活用するようという方向性を出しましたので、どんどん進むんです。折角、視聴覚教材センターというものが作られていて、その研修会とかが行なわれないのはどういうことなのかという質問も出てくるかなと思うので、ぜひ黒澤主幹さんに音頭を取っていただいて。
黒澤主幹	今、うちの方に、若手の大内がおりますので、そちらの方に。
佐藤教育長	スマホとタブレットは非常に近いものだと思いますので、その辺の私らはすっぱり分からないものですけども、まだ若い人たちが授業の中でどういうふうに見えるかというのを探っていただきたいと思います。ゲームだけじゃなくてですね。授業の中でも使えるように、進めていただければと思います。今、委員さんのお話を受け止めていただいて、今年立ち上げるのはなかなか難しいかと思うんですけども、もしその他の報酬とかなんかで、年度途中からでももし予算化できれば、そっちの方に振り向けてみればと思います。力を外に。その他質疑ございませんでしょうか。
	<質疑なし>

## 報告第6号 平成26年度AZ9パスポート事業の利用状況について

黒澤主幹より資料3にてご説明申し上げます。

前年度比で仙南圏域内相互利用施設はどこの施設も減少している。仙南圏域内相互利用以外の施設については、「スパッシュランドしろいし」が長期休業における利用を可能にしたことにより、利用が増加した。「蔵王町 B&G 海洋センター」については、天候不順等の理由により、施設全体の利用も減少していた。宮城県内の相互利用施設の利用状況については、仙台市の「スリーエム仙台市科学館」や「仙台市天文台」での利用が多かった。

( 質 疑 )	
佐藤(茂)委員	質問ではないのですが、B&Gのことを取り上げてもらいありがとうございます。今年、アリーナの工事が9月から入るんです。それでプールの方は、6月2日から8月31日で今年度はなりますので。一応お知らせしておきます。
黒澤主幹	それは各施設さんのご都合で。
佐藤教育長	その他、質疑ございませんか。
川島委員	はい。
佐藤教育長	はい、どうぞ。川島委員さん。
川島委員	この利用状況を見せていただいたんですが、この利用状況は期待値からすると、相対的に低い方ですか。それともまあまあじゃないかというところですか。
黒澤主幹	相互利用施設の方ですね、無料で利用できる場所に関しては、宮城県内につきましては、圏域との相互利用ということで、他のから比べれば利用が落ちているんじゃないかという感じを受けます。結局、パスポートを持っていれば、圏域外でも無

黒澤主幹	料で利用できることなので、子どもたちにとっては非常にありがたいことですので。使って戴きたいんですけど。
川島委員	たぶん今、結構貧しい家庭もなくなってきてるじゃないですか。だから、家庭の中で遠くまで出かけて行こうかというのが少なくなってるのかなと思って見ていたんですけど。あの遠足とかなんかで行く科学館とか天文台とかっていうのは、あまり今後も減らないと思うんですが、家庭で行く、連れて行ってもらうというのはどんどん減るんじゃないかなと感じました。
黒澤主幹	はい。逆に社会見学等でご利用される場合はもちろん、今おっしゃったように。
川島委員	でも目的は、それでも構わないわけですね。
黒澤主幹	それは構わないです。
川島委員	それで主催している方としては、その学校で社会見学に行くときに利用されれば、それでOKなのか。家庭でもばんばん使ってほしいものを望んでいるのか。
黒澤主幹	どちらもなんですけども、うちの方としてはそのお互いに圏域としての、お互いのを無料にしてですね、交流を図っていききたい。ひいては、色んな施設を利用して勉強していただきたいというのはありまして。単純にその家庭で行くだけでなくでですね、そういった形で利用するのも。一番初めは、休みの期間の利用をということで、始まったものですから、そこが始まりなんですけども。段々色々な施設ができてきて、土日以外にも休みの期間に使えるようになってきたので。
川島委員	今、子ども会活動も下火になってきているって話はちょっと聞いているんですが、子ども会が盛んだった頃は、意外にこういう施設たくさん使うんですけど。
黒澤主幹	たぶん色んな子ども会さんで、どっかに行くとなると、こういうご利用されるかなと思うんですけど。はい。
佐藤(笑)委員	今、いいですか、ちょっと。我が町の、私もちょっと分からない部分が、セントメリースキー場ね。我が町で小中学生は無料なんですよね。町の。それでそういった場合には、AZ9 パスポートとか使わないわけですから、こういったものには出てこないですよ。
黒澤主幹	そうですね。スキー場さん関係では被災地復興の割引があるということで、今現在、そちらを使った方がパスポート使うよりも安く利用できるといったことで、こちらを使わない。それが数字に、各スキー場さんがそうなんですけど、白石スキー場さん、えぼしさん、七ヶ宿、0となっているのが、理由がございます。各町さんの小中学校さんの利用無料というのは、もちろん各町さんで。
佐藤(笑)委員	AZ9 パスポートの利用状況ということで、ここに数が上がってきているんだけど、町村の教育委員会においては、無料にしたりして、どんどん利用してるんですよ。ただこの数だけを見ると、子どもたちが活動していない感じに受けないでもないんですよ。だから単純なことのお話をしたんですけど。捉え方ね。一般の人が見たとき、子どもたちがなんで利用しないんだろうって。
佐藤教育長	夏休みの利用については、色々議論がございますよね。それで子どもさんだけが無料となるんですよ。家族がお父さん、お母さんは通常の料金なんですよ。そこのところがネックになっていると思います。ですから、それでもいいんですけども、家族全員だとかかなりの金額になってしまう。パスポート持っている一人だけ、あとは親がついていけば半額にするとかっていう、各市町で少し便宜を図ってもらうと、もっと増えるかなと思います。ただ、子ども会だと1人か2人か引率が行って、

佐藤教育長	あとはどうって入っていくとね。ほとんどかかんないで過ごせるっていうことで、子ども会だと利用が多いと思いますね。家族で行くっていうのはその辺があつて。子どもがいたら、家族だったら無料にしましょうっていうと、白石さんが議論があつて非常に、ちょっとルール違反があつて。そんなところですね。パスポートの利用につきましては、これを含めてですけども、教育長会議などにですね、黒澤主幹に出席していただいて、宣伝を大声でやっていただければ、時間設定しますので、10分くらい来ていただいて、宣伝をお願いしたいと思っております。他に質疑、皆さんからなければ、次に進みますがよろしいですか。
	<はい>との声

**報告第7号 平成26年度仙南芸術文化センター事業の実施状況について**

**報告第8号 平成26年度仙南芸術文化センターの利用状況について**

教育次長より別冊仙南芸術文化センター平成26年事業報告書にてご説明申し上げます。

69～72頁の主催事業の実施状況については、記載事項のとおり回数、参加者数で開催した。70頁の圏民参加体験事業では、えずこシアターが韓国へ公演に行き、非常に好評を得た。71頁の圏民企画劇場のAZooは、AZ9ジュニア・アクターズの卒業生が集まり、公演を行ったものである。利用状況については、4～5頁に記載のとおりである。施設全体の使用状況は稼働率100%である。

( 質 疑 )	
菊地委員	はい。
佐藤教育長	はい。
菊地委員	質問ではありませんが、報告の内容が、大変こういっばいにまとめてもらいまして、今の説明を聞かせてもらっても分かりやすい、中身の濃いお話をしていただきました。特にですね、水戸所長がイギリスに行かれたときのことを文章にしておられますけれど、2頁ですが、これが1回読んだだけではもったいない、何回も読ませてもらいたくなるような、そういう素晴らしいご挨拶も書いてありまして、多くの人に読んでもらいたいなど。あるいは、何回でも読んでみる価値はあるなど。そういうふうになりました。感想です。
教育次長	ありがとうございます。
佐藤教育長	はい。感想を頂きました。他にご質疑、感想、ご意見ございませんでしょうか。
	<質疑なし>

**報告第9号 平成27年4月から同年5月までの主な事業等の経過について**

教育委員会事業について、黒澤主幹より別紙資料4にてご説明申し上げます。

仙南芸術文化センター事業について、水戸教育次長よりご説明申し上げます。

( 質 疑 )	
佐藤教育長	えずこホールの主な事業経過の中に、繁昌院とあるんですが、お寺でやるんですか。
教育次長	そうですね。お寺の本堂でキャラバン、ギターアンサンブルの演奏をしたというものです。
佐藤教育長	すごいですね。仏教の中にこうなっていくというのは、非常に画期的で。その他、ございませんか。
黒澤主幹	教育長、すみません。追加でよろしいでしょうか。



佐藤教育長	追加で。
黒澤主幹	先程の現場訪問のところで、成果として、自作視聴覚教材がなかなか作られないとか、ということもあって、今回、そういう件につきましても現場訪問事業でお話したところ、丸森町のまちづくりセンターさんで昔話をまず語部さんが高齢なものですから、今のうちに録音しておきたいという話がございます。それについて今年度進めたいというのがございます。それが1つと、大河原町さんから小山田やすとことという踊りがあってですね、そちらの方も歌われる方がなかなか高齢なので、今のうちに歌を録音して、歌があれば踊りができる。あと、踊りもその映像として残しておきたいということもございまして、そちらの方は今年度進めまして、来年度の発表会に出せればなということで考えております。以上です。
佐藤教育長	はい。今、黒澤主幹の話で、現場訪問事業は26年度から始めたんですよね。
黒澤主幹	そうですね。
佐藤教育長	これは教材コンクール、地域教材コンクールの掘り起こしと言いますかね、参加する方がだいたい決まってしまうので、ここ数年でですね。ほとんど同じ人、入替あっても似た件かなという。この若手のどんどん教材コンクールに参加する人を掘り起こすのに、また育成するのに現場訪問をすることで始まった事業でございます。昨年度の成果が今年になって表れてくるといいなと思いますけども。是非各市町でもですね、そういうことがあるんだよということでやっていただきたい。これも合わせて、教育長会議で宣伝してもらって、ポイントを掴んでもらって、10分くらいの間ですけども、そういう部会長さんもおりますので、何月何日ということで連絡しますので、快くお話していただいて、お伝えしていただければと思います。ご質問ないでしょうか、その他に。
	<質疑なし>

## 9. 仙南地域広域行政事務組合教育委員会教育長職務代理者の指名

佐藤教育長	私が指名することになりますので、佐藤茂廣委員にお願いいたします。
一 同	<お願いします>との声
佐藤教育長	続きまして、ご挨拶を。一言お願いしたいと。どうぞ。
佐藤(茂)委員	指名されまして、びっくりしているんですけども。務まるかどうかはちょっと微妙なんですけれども、教育長さんにご指導いただきながらね、頑張っていければと思っておりますので、よろしくお願いします。
一 同	<よろしくお願いします>との声

## 10. 議事

### 議案第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施について

水戸教育次長より別紙資料5にてご説明申し上げます。

2頁にて教育行政点検評価員会議の開催案について、ご説明申し上げます。開催日時は平成27年8月17日13時30分から15時30分まで、場所は仙南地域広域行政事務組合総合庁舎内研修室、点検評価を委嘱する委員は及川義行氏(大河原町)と鈴木悦郎氏(丸森町)である。3頁以降は教育委員会の各事業の成果と、事務局内での課題となっている。

( 質 疑 )	質疑なし。
佐藤教育長	それでは質疑ないものと認め、別紙の内容にて実施いたします。

11. その他

○ 仙南地域広域行政事務組合教育委員会事務所の統合について

事前に開催した教育総合会議でご説明申し上げていたため、詳細説明については割愛した。

( 質 疑 )	
菊地委員	やっっていく中でね、色々出てくるところがあるかもしれませんので、その都度でよろしいんじゃないでしょうか。
佐藤教育長	先程の論点から、少し背景も話しますと、えぞこホールの運営につきましては、3町の運営費で賄ってます。その人件費は3町で分けて。それから教材センターというか、教育委員会のスタッフにつきましては、9市町の負担でやっております。ですから、その擦り合わせと言いますかね。3町でやるといっても、とても2市7町の9市町の総意に基づいて、えぞこホールも運営しているわけですから、大枠です。そして、それは規約上ではそうなっていますが、すべての市町が使っていないってなっているわけですからね。そういう観点からすれば、一緒のこういうふうな組み合わせもあるのかなと、正当なものとしての議論で認めていただくような方向で、進めるようになると思いますけども。これは、この教育委員会の意見という形で聴取したということだと思んですが、これが実際に議会にもう1回かかるんですか。
教育次長	これからのスケジュールですね。まずは、総合教育会議の資料の中にも書いてありますけども、6月頭に理事会がございますので、そこで今日と同じような説明をさせていただきます。それで了解を頂ければ、7月の理事会、議会に条例の改正案を提出いたします。改正といたしますのは、設置条例です。教材センターの位置を明示する条文がございますが、そこをえぞこの住所に変えるということだけを提出します。それが通れば、すぐに準備を始めようと思っております。
佐藤教育長	その前には教育委員会は開かないわけですから、今回のことをご承認いただいて進むということになりますね。そうしますと、議会に上がって、条例が制定されれば、そのとおり実施ということですね。そうしますと、だいたい先程のスケジュールを見ると、実際、引越しとかなんかは日程にもう少し具体になるんでしょうけど。
教育次長	広報期間を、周知期間を取りますので。約5ヶ月取りますので、1月の来年の頭から向こうでの仕事を始めるということできたいと思います。それで1点、併せてご相談なんですけど、内部的に検討していることがございまして、愛称を考えては良いのではないかと。つまり仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターというものの自体がどうも敷居が高い印象を与えているのではないかと。これがございまして、例えば大崎で言いますと、パレットという。その中に教材センターが入っているんですが、あとは仙台で言うとメディアテーク。あれも生涯学習施設ですけれども、基本的には映像図書館とその他の社会教育の様々なものが入ったのがメディアテークです。そのように、何か愛称を付けた方が皆さまからの印象もよくなるのではないかと。利用促進の面でも。どうしても教材センターとありますと、社会教育、学校教育関係の施設と思われるがちなんですけど、完全に一般の方々の利用も問題ありませんので、その辺の利用促進のために愛称をつけてはどうかと考えておりますが、いかがでしょうか。
佐藤教育長	今、あったことについて、いかがでしょうか。
一 同	<良いと思う>との声

佐藤教育長	もう1つですね、AZ9の運営も絡んでなんですけども、えずこホールに命名権を設定してはいいんじゃないかというアイデアが当然出てきますよね。これは教育長部会でも出たんですけども、これはどういうふうに動いていますかね。見直しはあるんですか。まったく今、没になったとか。
教育次長	これは色んな考え方がございまして、当然財政が今、厳しいので、命名権、ネーミングライツを利用して、収入を増やそうというのはあるんですけども、2つ考え方がございまして。1つは施設が小さい場合、たぶん大きな金額は頂けないんですね。その小さな金額を頂くために、例えばえずこホールという名前がまったくどっかの業者の会社の名前に使ってしまったら、果たして良いのかどうかという。仙台であればね、例えば東京エレクトロンホールは年間5,000万だったと思うんですけども、それくらいずつ頂いているんですが、しかもそれが残念ながら東京エレクトロンホールには入らず、県の予算の中に入ってしまったらただけなんです。ここも微妙な問題がありまして。ということもございまして、その辺を少し慎重に検討した方が良いのかなと考えてございまして。
佐藤教育長	その辺も調整していただいて、もし可能であれば、色んな教材センターとかAZ9の運営費の中の一部に使用可能ってことになれば良いですね。吸い上げられるのであればいいですけど。そういうことで、お願いしたいと思います。その他なければ次に。
川島委員	すいません。先程助役さんの方から、AZ9の活動は長く見積もっても30回ぐらいまでしかできないであろうということなんですが、何かの予算を減らして、あるいは質を下げているか。質を下げたら、どうなのかな。一生懸命頑張ったって、少し1回か2回か延ばせるぐらいなもんですよね。30回が32回ぐらいまで大丈夫だみたいな。それを回復するための見通しみたいな案ってあるんでしょうかね。
教育次長	色んなやり方はあると思っています。助役が言った30回というのは、今の果実が残っているのが、3,500万あるんですね。10億以外で。これを運用すれば、年間500万使ったとすると、7回ですので、今23回ですから、30回ぐらいまでいけるだろうという計算になっています。ですが、先程お話したように500万くらいあれば、何とか今やっている事業が展開できるんですね。それをもし市町村の負担金でご負担いただけるようであれば、9で割っていただくと分かるんですが、平均値ですけども、50万強くらいを各市町で負担していただければ、実は継続できるんです。果たして、その50万について皆様からご賛同いただけるかどうかというのが、1つポイントになると思います。それから、その統合のところでも話しましたが、補助金・助成金を活用すると、それをもう少し圧縮することができると思います。つまり、各市町から20万、30万頂ければ、今の事業を継続できるというような、予算の組み方も十分に可能だと思っています。その辺のご意見、ご協議を頂いて、何とか継続の方向には持っていかせてもらえれば思っておるんですが、それにつきましても、各委員の皆様からですね、各市町で特に首長であったり、副市長であったりと、少し密な連携を取って、協力をお願いをしていただければと思うんですが。
川島委員	理事会の方では、なくしたいと思っているんですか。その意見が強いんですか。
教育次長	この前の会議に出席してはおらないんですけども、財政担当課長、広域担当課長会議の中では、3分の2くらいが、なくしたいのではなく、その前の段階として基金を返してくれっていう話です。その基金の10億円の果実でやっているんですが、

教育次長	その財政担当広域担当課長の3分の2程が返してもらいたい。あとの3分の1が継続しても良いのではないかというような意見になっておるようです。それで6月に副市町長会議がありまして、それを経て理事会での協議になると思うんですが、最終的には理事が、理事会が決定する問題ですから、仮に財政担当課長会議で芳しくない意見が集約されたとしても、理事長、理事会の議論の中で継続となればそうなっていくとは思いますが。その辺はこれからの問題なんですね。ですので、ただ状況を見守るだけではなくて、何某かはやはり各首長さんとお話を頂いてですね、強く要望していただければ、また情勢は変わってくるのではないかと考えております。
川島委員	その理事会の議題の中に、AZ9とか何かについての話す予定だったときに、事務局サイドから誰か来てくれることはあるんですか。
教育次長	そういう機会もかつて一度、私が出席してAZ9事業の状況についてご説明したことはあるんですが、それ以降は担当者会議になっておまして、ちょっと私は出席していないんですけど。財政担当の課長さんが考えていることと、例えば我々の教育委員会の担当課長さんの中で出てくる議論というのは、まったく違う内容になっているものですから、そこをうまく調整していかないと、財政の方ではお金がないということが前面に出てきますし、教育委員会からは良い事業だから継続してくれってことなんです。それをどう擦り合わせていくかという話になってくると思います。
川島委員	それはだから、継続してくれっていうのでは、駄目だと思うんですよ。やっぱりお金がないので。だから、代わりにこういう方向でやればやれますよっていう提示をすれば、少し意見は変わらないかしら。
教育次長	今までは基金の果実だったので、どの市町についても特に意見もなく、毎年毎年予算化されてきたんですが、今度は果実がなくなった場合、一般財源、つまり各市町の持出しになっていくわけですね。そこについては、やっぱりご理解を頂かないということなんですね。ですから、話し方1つだとは思いますが。重要な事業であることを強調した他に、各市町の負担金が2,30万でできるんですよという案内も必要かなと思っておりますけども。
菊地委員	はい。
佐藤教育長	はい。どうぞ。菊地委員。
菊地委員	この件については、今、お話が出されているように、それぞれの自治体の中で、首長さんの方に向かって、声を大にしてお願いをするとか、意見を立てると。それも一策ではあると思うんですけど、一策であるだけでは、私はどうも難しいのではないかなと。そこでということになるんですが。これから、総合教育会議が動いていくことになりますので、私はこの場を活用するというのが、もう1つの策ではないかなと思いますね。こちら側から、教育委員会側から、総合教育会議をこういう件で開いてほしいという要望を出すことができるわけで。そこで話し合っ、合意ということになれば、総合教育会議の中で、理事会の後の代表者と会議の中で合意となれば、お互いの側でそれを実行していく義務が生ずる。我々の方は、我々の方でその義務を果たしていかなければならない。理事会側は理事会側として、その義務を果たしていかないとならないとなりますから、大きなうねりになっていくのではないかと。私はもう一策として、総合教育会議という場があるのではないかと考えるべきでないかとは思いますが。

佐藤教育長	<p>はい。どうもありがとうございます。その他に意見ございませんでしょうか。確かに今、菊地委員のおっしゃるとおりでございます。総合会議を1つ、梶子にするというのはあって。各市町ですね、財政担当が一番厳しい壁なんです。ここで全会一致じゃないと通らないんですよ。どこかの町が反対する。例えば次の段階でも、理事会の場で他の町が今年は色んな説得を受けたんだけど、どうしても財政の方が緊迫しているから、1億円は返してくださいとなれば、ご破算となるので。今、色んな策がまだ残されている。それは、1億円県から頂いたのを何とか引き留めるために、1千万か2千万かを市町で出してですね、数億円にして残すという方向が1つ考えられる。それからですね、AZ9の説得にあたってですね、1つ映像をですね、今まで取り貯めた映像いっぱいございますから、それを5分か10分に編集してですね、理事の皆さんとか、担当者の皆さんに見ていただくと。こういうふうにも子どもたちは公演しているという様子。もう1つはですね、今、2、3年取り組んできているんですけども、AZ9を経験した子どもたちがどのような人生を送っているか。これは追跡調査をしまして、その中で、今プロに入っているのが、4人でしたっけ。その成果をですね、きちっと理事さんたちとかそういう担当者とか、それから教育長部会という色んな形でですね、お伝えしていくことを考えてますので、その辺について事務局の方から報告願います。</p>
教育次長	<p>はい。一度、ご報告させていただいたかと思っただんですが、OB、OGのアンケート調査ですね。あの後、若干追跡調査も行って、数字ももう少し増えたりしておりますので、再度まとめて教育長が言われたように、機会があるごとに説明していきたいと思っております。実は映像についても、是非見ていただきたいと思っておりますけども。いや、いらなと言われちゃうんですね。理事会とかで。なかなかここが厳しいとこなんです。</p>
佐藤(笑)委員	<p>忙しいんですよ、皆さん。</p>
教育次長	<p>はい。時間がないので。それはいりませんと言われるので。いつも短時間で簡単に報告して終わってしまうので。</p>
佐藤教育長	<p>1時間半、1つの公演が1時間半ございますから、それを端折っても、10分か15分の間にもものすごく公演の中身が濃く、感動的に伝わってくるようなね、映像を繰り返し広げていると良いと思うんですけど。何らかの形でですね、何年度公演はこういう場面がありましたとか、何年度公演はこういう形で3,000人集まりましたとかってね、そういうふうな報告があれば、これはなくせないなという印象を持たれるのではないかと思います。大変な苦勞があることかと思うんですけど、探っていきたいと思います。それではその他。</p>
黒澤主幹	<p>アクターズ絡みでいいですか。すいません。先程申し上げれば良かったんですけども。今年度、23期を募集したところ11名応募がございまして、6月7日にオーディションという形ではなくて、面接という形で、何事もなければ、皆さんそのまま。</p>
佐藤教育長	<p>定員はなんぼなの。</p>
黒澤主幹	<p>一応、20名を考えてたんですけど、11名ということで、今のところは11名が加わって33名でスタートするんですけども。今後、夏休み期間中にワークショップ、えずこホールと一緒にワークショップを行いまして、その中でも入団していただける方を随時募りまして、9月にフェスティバルもありますので、そちらでもアクターズを紹介をしていただいて、10月くらいから本格的にスタートするので、それ</p>

黒澤主幹	までの間にもうちょっと増えればいいなと考えておりますので。とりあえずご報告でした。
教育次長	9月までは随時入っていただける体制でいきますので、もしどこかそんな機会があったら、そんなお話をしていただければ大変ありがたいです。
佐藤教育長	アウトリーチももう始まるんですか。
教育次長	アウトリーチは今のところ、まだえずこ中心のものなんですけども、ちょっと随時。まず最初にやるのが、ワークショップを夏休み中に4日間やります。
佐藤教育長	丸森の公演のとき、午前中にワークショップをしていましたよね。一緒に練習した子が。
黒澤主幹	今、4名入っています。
佐藤教育長	その場に入っちゃったと。その公演の中にワークショップで手を挙げた子を入れたんですね。一緒に踊った子は、午前中勉強しただけで、あれくらい踊ったんですね。
黒澤主幹	そうです。現在入ってます。
佐藤教育長	拍手もらった喜びで、入っちゃったんですから、こういう呼び込み方というか、それがあればね、少し人数も応募してくるのかなというふうに思います。色々、新たな挑戦を昨年辺りから、どんどんしていただきまして、2つの文化センターと教育委員会が合わさって、また新たなアウトリーチとか始まる体制作りも進んでいるようでございますので、どうぞその辺もお願いします。

## 12. 次回教育委員会定例会の日程について

佐藤教育長	次回の教育委員会定例会の日程につきましては、平成27年9月30日午前10時ということで進めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。
-------	---

## 13. 閉 会 午前12時00分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

平成27年9月30日

教育長

署名委員